

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム よろこびの家 茉景1階	評価実施年月日	平成22年1月1日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年1月1日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	理念はスタッフルームやホーム内に掲示しており、毎日の朝礼時に復唱をしている。新規採用者には、オリエンテーション時に説明を行っている。	理念については、職員と話し合いをした結果、開設当時の理念であり、職員はもちろん入居者様やご家族にも浸透されているので、このままの理念で行い、業景の色として「ゆったり」「いっしょに」「たのしく」をモットーに今後も取り組んでいく。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を館内に掲示し、朝礼時に唱和している。いつでも理念を念頭に置く事を目的にして、日々の介護・自分・他の職員にも注意し合える環境を作り、新人オリエンテーションの際には特に理念の大切さと意味の理解に努めている。	理念を実行していくには1、ご本人の心に寄り添い、生き生きと笑顔ある生活が送れるよう支援する。2、馴染みある生活空間を作り、ご本人の力が可能な限り発揮できるよう支援する。3、地域とのふれあいを通し、自由で豊かな心と生活が保てるように支援する。4、家族の方が安心と満足を得られ、ご本人との楽しい時間が過ごせるように支援する。この事が出来ているか、常に職員と話し合いの時間を持っている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	広報誌に理念を掲載したり、運営推進会議や広報誌に掲載して理念の大切さを述べている。	理念を掲示したり、広報誌に掲載して、ご家族や地域の方に理解してもらえるよう取り組んでいる。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	行事の時等は、あいさつ文を作り参加して頂けるように挨拶回りを行っている。近所の方々には挨拶を行っているが、まだ、気軽に立ち寄ってもらえてはいない。	散歩時等、お会いした時は挨拶をするように職員間で徹底している。近所の方が気軽に来訪して頂けるような雰囲気作りをしていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の夏祭りに参加したり、近くの幼稚園の園児達や高校生の方達がホームに来て歌や踊りの披露や一緒に行事に参加して頂く等交流をもっている。	当グループホームをたくさんの方々に知って頂くように今後も様々な交流の場に参加し、又、来訪していただけるようにしていきたい。
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域のお役に立てるように、町会長とも参加できる事がないか、常に話をして町会の行事に参加できるように取り組みをしている。	町内会の夏祭りには毎年参加していますが、その他の行事にも積極的に参加出来る様に交流を深めていく必要があります。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価、外部評価の意義については、スタッフ会議で話し合っている。評価の結果を生かし、改善に努めている。</p>	<p>今後も管理者を中心に職員全員が理解できるように会議の場で話し合いをしていく。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>2ヶ月に一度運営推進会議を行い、意見や質疑応答等で情報の共有化を行い、サービス向上に繋げている。</p>	<p>御家族の参加が少なく、意見交換が思うように行えていないため、開催時間や日程の見直しをしながら、参加して頂けるように調整していく。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市町村主催の研修等に参加しており、必要時には訪問している。関わりは殆ど運営推進会議に限られている。</p>	<p>サービス向上のために市町村と連携を図っていきたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>現在、権利擁護を必要としている利用者様が少ない為、同制度の活用は行っていない。研修会等には参加している。</p>	<p>今後は、必要な制度を利用する利用者様が増えてくると考えられるので、成年後見等の研修会に参加している。職員の誰もが説明できる体制を整えていく。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>全グループホーム内で身体拘束廃止委員会がいて、毎月会議を行い防止に努めている。職員一人ひとりが虐待防止に努め、スタッフ会議や身体拘束廃止委員会で虐待を起こさない為の話し合いを行っている。</p>	<p>身体拘束委員会で事例検討を行い、身体的虐待、言葉の虐待について意見交換を行っている。新しく入った職員には高齢者虐待についての資料を読み感想文を書いて貰い虐待への意識付けを行っている。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>ご本人、ご家族に十分説明を行い、理解して頂いた上で契約、解約を行なっている。又不安や疑問があった時には気軽に話をして頂けるような雰囲気作りや対応を心がけている。入退居時だけでは十分に理解されないことがあるので説明し対応している。</p>	<p>ご本人、ご家族と話す機会を作り、その都度誠意を持って相談に乗り納得して頂けるような説明を行っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情相談窓口担当者を設置して対応している。利用者様やご家族から不満や苦情が聞かれた時は職員全員で原因究明、改善策を話し合い対応できるように努めている。		各ユニットだけではなく全グループホームで情報を共有する為、全体管理者会議でくわしく報告し意見交換を行っている。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	病院受診の結果や健康状態については面会時や遠方のご家族には電話で報告している。金銭管理は管理者が行い、レシート、領収書を保管し、帳簿は週1回管理者同士で確認し合い、ご家族の面会時には帳簿の確認をしてもらっている。又、本部の方にも月1回確認してもらっている。レシート、領収書、帳簿は請求書郵送時に同封している。職員の写真を掲示し、移動などがあった時には面会時や請求書郵送時にお手紙でお伝えしている。		職員全員が利用者様の健康状態を把握して、ご家族へ説明できるように申し送りをしている。今後も金銭管理を徹底していく。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情は管理者を中心に職員で対応している。苦情が出たときは会議を開き苦情の原因究明や改善策を検討している。苦情処理簿を作成し、職員全員で情報を共有し同じ苦情がでないように努めている。		スタッフ会議、全体管理者会議で苦情を受けた時から対応までを詳しく報告、話し合いを行い同じ苦情が出ないように努めている。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ会議や、個人の面談を行い職員の意見や提案を聞いている。また、スタッフ会議でも話し合い共有し業務に反映している。		今後も職員が気軽に意見交換が出来るよう管理者との信頼関係を築き環境づくりを行っていく。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	行事等の時は職員の数を増やし事故などが起こらないように勤務表の作成、調整を行っている。勤務体制も管理者を中心にスタッフ会議で話し合い変更を行っている。		今後も必要に応じた勤務時間の変更を職員全員で話し合い決定していく。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	極力異動は行なわないようにしているが、やむをえない事情の異動や退職は事前に利用者様に報告し動揺がないように対応している。退職や異動の希望があった時は理由を聞き原因を取り除きやむをえない理由以外は残れるように対応している。		やむをえない事情がない限り、極力異動や離職を抑えるよう努力している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>定期的な勉強会や法人外の研修に参加出来る様にしている。参加した職員には、報告書を作成してもらい参加出来なかった職員にも共有出来るようにしている。</p>	<p>管理者から研修参加の必要性を伝え、技術や知識の向上の為、いろいろな勉強会や研修に参加を促している。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>南北海道GH協議会で地域をブロック毎にわけ、その中で定期的に勉強会や交流する機会があり参加している。当法人内外ではパソコンを使いメール等で情報交換を行っている。</p>	<p>他の同業者と連携を図り、意見交換や勉強会に全職員が参加できるようにしていきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>悩みがあるときやストレスを感じた時は、気軽に管理者に相談出来るような環境作りを行い、普段の会話等からでも管理者は気持ちを汲み取る努力は行っている。又、職員同士も気兼ねなく意見を言い合えるような環境作りと交流会を行っている。</p>	<p>管理者が中心となり、職員のストレス軽減と悩みの解消を図り働きやすい環境作りに努めていきたい。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>管理者は職員と人事考課と面談を行い、個人の努力や実績を大切に、尊重し合える環境作りを行っている。又、向上心を持ち仕事ができる様に努めている。</p>	<p>随時、職員と話し合える環境を作り人事考課や面談時等でアドバイスをしている。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居窓口担当者と管理者が中心になり、生活の上で利用者様が困っている事、不安な事を初期から利用後も職員間で把握に努め、生活の中で常に不安や悩みを聞く機会を作っている。</p>	<p>入居されてからは、スタッフ会議やカンファレンス会議で話し合い利用者様の要望や不安を職員で情報を共有しケアにつなげている。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居窓口担当者と管理者が、ご家族との面談の時に現状や困っている事、不安な事等を聞き、今後についての相談、助言をしている。</p>	<p>誰でも気軽に相談や見学が出来るように事前に連絡がなくても受け入れ、困り事等聞いて助言を行っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ケアプランの作成時に利用者様、ご家族が必要としている支援を第1のサービスにしている。利用者様一人ひとりの過去の経験を生かしたケアに向けて情報収集に努めている。		収集した情報から利用者様に合ったケアサービスを職員で検討している。 又、残存機能を把握しケアサービスに取り入れている。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用者様が馴染めるように職員は利用者様の場の雰囲気に合ったサービスをして会話やコミュニケーションの工夫を行なっている。拒否された場合は無理強いせず時間をかけて声かけを行っている。利用者様が今一番何が必要なのかを重視しながら観察を行い職員間で検討し利用者様本位の生活を目指すよう努めている。		これまでの生活習慣を変えることなく重視する事で精神的に落ちついて生活が出来るよう努めている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者様に尊敬の気持ちを持って接している。料理の得意な方には味付けの仕方や切り方を教わったり、編み物の得意な方に編み方を教わったり等、一緒に過ごしながら利用者様から学び支えあう関係を築いている。		今後も利用者様と一緒に過ごしながら、出来る事出来ない事を把握し、出来ない時にはさりげなくお手伝いをして支えあう関係を築いていきたい。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者様はもちろんの事、ご家族の面会時にはご家族とのコミュニケーションも大事にし、ご家族の気持ちを理解するように努めている。		まだ、全員のご家族とのコミュニケーションがとれているとは言えないので、今後も積極的にコミュニケーションを図っていきたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族の面会時や電話で普段の様子をお伝えしている。また、行事を行う際にはご家族にもお知らせし、利用者様と一緒に参加していただき、ご家族とのより良い関係を築いていけるよう支援している。		今後も本人とご家族がよりよい関係を築けるように、職員全員が利用者様、ご家族から信頼されるような支援を行っていきたい。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	長年の友人や馴染みの人との関係が続くように、いつでも面会に来て頂けるような雰囲気作りを心掛けている。		親しい友人を外出をされる利用者様もあり、今後も気軽に来て頂けるような雰囲気作りをしたい。また、今後積極的に利用者様の馴染みの場所へお連れして人や環境などの関係が途切れることのないよう支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者様同士の関係を把握して、テーブルに座る位置を考えている。利用者様同士が関わりを持つことができるように職員が間に入りコミュニケーションを図れるように努めている。		毎日、レクリエーションの時間を作って体操や歌を通じて、利用者様同士がコミュニケーションを図れるようにしている。今後も、レクリエーションには力を入れて利用者様同士が関わる時間を増やしていきたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	現在はサービス利用が終了しても、継続的な関わりを必要とされる方がいない為評価は困難である。		今後、必要とされる方については適切な対応ができる体制を作っていく必要がある。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様や、ご家族から暮らし方の希望を聞き、一人ひとりがその人らしい生活が送れるように支援している。		今後も本人や、ご家族の面会時には積極的に意見を聞くように心がけ、利用者様一人ひとりが充実した生活が送れるように支援していきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族が面会に来られた時にはご家族から情報を得て、利用者様一人ひとりの馴染みの暮らし方、生活歴を把握して利用者様が少しでも慣れた生活環境で暮らせるよう支援している。		入居時には、ご家族や利用者様から今までの生活歴を聞き、フェイスシートを作成して、職員全員が把握できるようにしている。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者様の一人ひとりの1日の過ごし方や、健康状態を職員間で申し送りを行い、一人ひとりの把握に努めている。		今後も利用者様一人ひとりをよく観察し、心身状態や心理状況の把握をして、本人の意思を尊重し、本人に合わせた生活を支援できるように努めていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	カンファレンス会議や、スタッフ会議で利用者様一人ひとりの状態について職員全員で話し合っている。		ご家族の面会時には利用者様に日々の様子をお伝えして、ご家族の意見をj得ている。利用者様、ご家族の意見や要望を反映した介護計画を作成するよう努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	計画作成担当者、担当職員を中心に、カンファレンス会議、モニタリングを行っている。また、利用者様やご家族に要望を聞き、介護計画を作成している。		今後も利用者様の状態をよく観察し、ご家族の要望を大切にケアプランの見直し、作成を行っていきたい。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者様一人ひとりの様子を把握し、個別の記録に記入している。記録には利用者様の様子がわかるように細かく記入し、生活の様子や健康面についても記入されている。		利用者様の様子で変わった事があれば、申し送り表に記入し職員全員が把握できるようになっている。今後は、利用者様の生活の様子が記録を見ればすぐにわかるような記録の書き方ができるようにしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	利用者様、ご家族の要望に応えることができるよう、管理者を中心に話し合いの場を設けて、個々に応じた様々な対応ができるように努めている。		今後も、ご家族との信頼関係を築いていく為にも、職員全員が利用者様の状況を把握し柔軟な支援ができるように努めていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	近隣の幼稚園や高校のボランティアの協力を得て、クリスマス会や敬老会等の行事に参加して頂いている。また、消防にも協力して頂き防火訓練や指導をしてもらっている。		今後も多方面との協力体制を強化していきたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と連携を図り、情報交換を行っている。		今後は、利用者様の必要に応じて積極的に他のサービス事業者との連携を図っていきたい。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターとは、利用者様の意向や必要性に応じて連携できる体制は整っているが、現在利用されている方はいない。		利用者様のニーズに応える為にも、今後地域包括支援センターとの協働体制に力を入れる必要がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居後も、入居前からのかかりつけの病院を受診している。新たな医療機関を受診する際はご家族と相談し受診している。		かかりつけの医療機関に職員と一緒に受診して、かかりつけ医との関係を築いていきたい。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	受診時は職員が一緒に付き添い、担当医に相談したり助言等を受けている。		今後も病院受診の際には、担当医への相談を行い支援していきたい。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週1回、医療連携看護師の健康管理があり、その時に利用者様の状態を相談したり、指示をもらっている。		医療連携看護師は24時間体制で連絡が取れるようになっており、緊急時には連絡し、指示をもらっておりいつでも対応が可能になっている。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院先の担当医や看護師と連絡を取り、早期に退院できる様に相談や情報交換を行っている。		利用者が入院した際は、今後も管理者が中心となり早期退院に向けて、担当医や看護師との相談、情報交換を行っていききたい。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ご家族が終末期をグループホームで看取りたいという事を希望された時には、かかりつけの担当医と連携を図り対応できるようになっている。		今後も担当医と連携を図り、利用者様、ご家族が安心して終末期を送る事ができる様に支援していきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	今後の体調の変化に備え主治医、医療連携看護師を中心に、サービス担当者会議で話し合い、検討や準備を行っている。		今後も担当医、医療連携看護師と連携を取りながら重度化や、終末期に向けての準備を行っていききたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>入居の時は前の居宅の関係者に利用者様の情報収集を行い、得た情報を職員全員に伝えて住み替えによるダメージが無いように努めている。</p>		<p>今後も、十分な情報収集をして利用者様の負担にならないようにしていきたい。また、退居される方には、ご家族、居宅の関係者やケアマネジャーへの情報提供を行い、退居後も安心して生活ができる様にしていきたい。</p>
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>1人1人のプライバシーは尊重し、傷をつけないように言葉かけやケアを心がけて行っている。</p>		<p>個人情報の保護については利用者様、ご家族に安心して頂けるよう努めている。個人情報のファイル等の保管場所は鍵のかかる場所に保管し鍵は管理者が持っている。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している。</p>	<p>利用者様に自己決定が出来るような声かけを行っている。茶話会では、利用者様に飲みたい物を聞き好きな物を飲んでもらったり、食事のメニューも利用者様に食べたい物を聞きながら作成している。</p>		<p>入居者様より職員に自分が思っている事を遠慮し言わないでいる方もいるので溜めずに話して頂けるように支援を行っていきたい。</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入浴は希望を聞き、入りたいときに入浴していただいている。外出や買い物等も希望にそって支援している。</p>		<p>今後も利用者様一人ひとりの希望にそえるように支援していきたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>身だしなみに関しては、ご自分で出来る方にはご自分で行って頂いている。少しでもできる時は、声をかける・説明等を行っている。理容・美容も希望時に職員・ご家族同行で行かれている。</p>		<p>利用者様の希望などを尊重している。</p>
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>毎食時、その時の入居者様の様子を見てその入居者様が出来る家事のお手伝いを声かけを行って頂いている。</p>		<p>献立作りも入居者様の協力を頂き作成をしている。食事生活の楽しみの一つであってほしい為</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	1人1人によって摂取量と水分量が違うのできちんと状況に合わせて支援を行っている。		現在、タバコやお酒を好む入居者様は少ないが、吸い過ぎ・飲みすぎには中止したうえで楽しんで頂けるように行っている。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	本人の訴え時、または時間を見ながら声がけを行いトイレ誘導を行っている。		1人1人の排泄のリズム・タイミングがあるので崩さないよう勤めていく。夜間帯は時間を見ながらパット交換・起きているときにトイレ誘導を行っている
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人の希望した曜日や時間帯はもちろん、日を見て入居者様に声がけを行い、希望された時も入浴を行っている。拒否されあ時は無理に行っていない。日を改めて再び声がけを行なうなど対応を行っている。		日中に入浴をする事が多いが、寝る前に入りたい入居者様もいるので夜間帯でも入浴ができつように環境作りを行っていききたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	本人が「休みたい」「眠たい」時は無理させず居室のベットやソファなどで横になって頂き疲れがとれるまでゆつくり休んで頂くように支援を行っている。		しかし、長い時間休まれたり・眠られると夜に眠れなくなり習慣づいてしまうと昼夜逆転になる事があるので状況を観てから判断し実行している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	1人1人の入居者様のケアプランにも反映されており気分転換になって頂くように一人1人にあった気晴らしの支援を行っている。		昔からやってきている事・趣味も取り入れよりよい喜びのある日々を過ごして頂くように、また日々生活し新たに楽しみが増えるよう勤めていきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理が出来る利用者様には職員の見守りにて買い物をして頂き、金銭管理が困難な利用者様には、買い物に行かれた時に好きな物を選んで頂き、職員が支払いを行っている。		金銭管理簿を作成して領収書を貼り付け、週1回管理者同士で確認している。金銭管理簿は定期的にご家族にも確認して頂き、確認の印鑑をもらっている。金銭簿と領収書のコピーはご家族に郵送している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	行事や外へ出かける時には、利用者様全員に声を掛け、体調を考慮して参加して頂いている。散歩やドライブ、買い物の希望がある時には職員と一緒に行かれている。ご自分から行きたいと言われない利用者様には職員が声がけをして行っている。散歩には車椅子で行かれる方もいる。		季節関係なくその人のその時の状況を見て散歩や外出の機会を増やしていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	利用者様に行きたいところを聞いたり、職員で提案して散歩やドライブに出掛けている。利用者様から希望があったときには、出来る限り出掛けて頂いている。また、行事等で外出する時にはご家族にもお知らせしご家族との外出の機会をつくり支援している。		外出の希望を言われない利用者様もあり、外出をされる方とされない方の差があるので、今後も積極的に声を掛け外出の機会を増やしていきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	施設内には公衆電話があり、いつでも電話が出来るようになっている。また、子機電話もあるので居室でもゆっくり話ができる。利用者様の中には携帯電話を持っている方もあり、気軽に電話ができるようになっている。		ご家族から手紙が来た時に、読み書きが困難な利用者様には、職員が手紙を読んだり、代筆で手紙を書いている。今後も電話や手紙でご家族や友人といつでも連絡が出来る様に支援していきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族や友人が面会に来られた時には、居室でゆっくり話をして過ごして頂けるように心掛けており、職員は訪室しないようにしている。		ご家族や、友人等の面会時には挨拶を行い、利用者様の普段の様子をお伝えしている。明るい雰囲気でもいつでも気軽に訪問して頂けるように心掛けています。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	月1回身体拘束廃止委員会があり、職員全員で事例を検討し取り組んでいる。また、新人職員には高齢者虐待についての資料を読んでもらい感想文を書いてもらっている。		身体拘束についての勉強会や研修会に参加する等して職員全員で取り組んでいる。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室は中から自由に利用者様が鍵を掛けたり開けたりできるようになっている。職員の方から鍵をかける事はない。夜間は利用者様の希望で鍵を掛けて過ごされる方がいる。		日中は鍵をしていないので出入りは自由になっており、利用者様が1人で外に行こうとしても無理に止める事はなく、職員と一緒に同行し散歩をされている。夜間は防犯の為玄関の鍵を掛けている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>67 利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>日中、夜間の申し送りで利用者様一人ひとりの様子を把握し、プライバシーに配慮しながら利用者様の安全に配慮している。</p>		<p>日中の様子はもちろん、夜間は定期的に巡視を行って昼夜を通して利用者様の様子を把握し安全に過ごして頂ける様努めている。</p>
<p>68 注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>事故につながる注意が必要な物(包丁、洗剤、薬)は必要が無いときには鍵のかかる場所に保管している。</p>		<p>チェック表を作成して鍵のかけ忘れがないか確認を行っている。利用者様がお手伝い等で包丁を使う時は、職員が必ず傍で見守りを行っている。</p>
<p>69 事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>月1回事故防止対策委員会があり、事故の防止策を検討している。ヒヤリハット、インシデントについてもリスクマネージャーを中心に会議で話し合い、職員全員が重要性を把握し事故の防止に努めている。</p>		<p>緊急時のマニュアルを作成しマニュアルの把握に努めている。また、インシデント、アクシデントが発生したら、早急にスタッフ会議を開き再発防止に努めている。</p>
<p>70 急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>急変時や緊急時の対応マニュアルを作成したり、勉強会、研修会を行っているが、職員全員が緊急時に対応できるレベルにはなっていない。</p>		<p>事故対応マニュアルを事務所内に掲示している。今後も職員全員が理解できるようになるまで、緊急時、事故発生時についての勉強会を行っていききたい。</p>
<p>71 災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>避難訓練を年2回消防署の協力のもと行っている。職員全員が利用者が安全かつ確実に避難できる方法を理解していないと思われる。</p>		<p>自主的に避難訓練を行っている。職員全員が理解できるまで今後も行っていききたい。また、火災時の訓練だけではなく、地震についても今後は消防署の協力を得て訓練していききたい。</p>
<p>72 リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>面会時や担当者会議で、医療・介護の立場でご家族に説明し対応策を検討している。</p>		<p>今後もリスクについてはご家族にその都度説明し話し合いを行っていききたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		<p>利用者様に変化がみられたときには、申し送りを行ったり、申し送り表に記入し職員全員が把握できるようにしている。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		<p>申し送り表には、服薬チェックの欄があり、服薬したらチェックをするようにし、飲み忘れがないようにしている。また、薬が変わった利用者様がいたら、申し送り表に書いて職員全員が把握できるようにしている。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		<p>自然に排便ができる様に水分摂取をこまめに行い、食事面や運動をすることで対応している。今後は排便に関する勉強会も行っていきたい。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		<p>口腔ケアの仕方の勉強会を行い、正しい口腔ケアができるように取り組んでいる。また、利用者様の状態により、歯科受診や歯科往診を行っている。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		<p>1日の水分量が制限されている利用者様もあり、申し送り時に水分量の確認を行ったり、一人ひとりに状態に応じたケアプランを作成している。献立を作成する際には利用者様の要望を取り入れたり、カロリー等にも気を付けている。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		<p>感染症についての勉強会を行っている。また、勉強会をする際には医療連携看護師と一緒に指指導してもらっている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>台所や調理器具は毎日消毒をし衛生管理を行っている。食材については納品時の日付と使用する日付を記入し使い残しがないようにしている。また、消費期限、賞味期限も毎日確認し安全な食材の管理を心がけている。</p>		<p>期間間近の物をチェックして冷蔵庫に貼ってあるホワイトボードにメモをして職員全員がわかるようにし管理している。</p>
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関や建物周辺は定期的に掃除を行い清潔感に心がけ、玄関には季節の花を飾り明るい雰囲気作りを行っている。</p>		<p>建物の前にはもみじを植えて季節感を出している。また、玄関前はスロープがありバリアフリーになっており工夫されている。玄関前の階段には滑り止めマットを設置している。</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>玄関やホールには季節ごとに花を飾ったり、折り紙などで飾り付けをして季節感を採り入れている。</p>		<p>居心地の良い空間で生活ができる様に、毎日掃除を行い、チェックリストを作成してゴミや障害物がないかホール、玄関、廊下の点検を行っている。</p>
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>居間や廊下のソファに座り、新聞や本を読んだり、テレビを見て過ごされたり、ソファに横になって昼寝をされたりと思いいに過ごされている。</p>		<p>居間の畳みのスペースでは、利用者様同士で話をしながら洗濯物をたたんだり、テーブルや椅子の配置に工夫をして気の合った利用者様同士でトランプをされたりと気軽に過ごされている。</p>
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居時に、ご家族には今までご本人が使っていた馴染みの家具などを持ってきて頂く様に説明を行っている。居室には使い慣れた物があるので居心地良く過ごされている。</p>		<p>利用者様から使いたい物を聞いて、ご家族の協力を得て家から持ってきて頂いたり、購入している。また、居室に仏壇を置かれている入居者様もおられる。</p>
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>天気の良い日や、気温の状況を見て、居室やホールの換気は随時行っている。居室の窓開けは利用者様の体調を考えて行っている。</p>		<p>ホールに2箇所、加湿器を設置している。また、居室の乾燥を防ぐ為に洗面器に水を張って対応している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>利用者様に安全で自立した生活が送れるように、ホーム内はバリアフリーになっており、浴室や廊下、トイレ等に手すりを設置している。</p>	<p>椅子やテーブルの配置にも気を配り、利用者様にとってどのようにしたら、安全で自立した生活が送れるのかを考え環境作りに取り組んでいきたい。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>日々の生活の中で利用者様一人ひとりの出来る事を見極め、出来る事は声かけや見守りをして行っていただいている。</p>	<p>今後も出来る事は強制する事なく、職員と一緒に楽しく行っていただけるような声かけを行っていきたい。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>天気の良い日には、ウッドデッキに出て散歩をしたり、夏には行事として駐車場を利用して花火をしたり、日中には駐車場に椅子を並べて座り日光浴を行っている。</p>	<p>今後は日光浴だけではなく、外でも体操を行う等して利用者様に楽しんでいただけるよう取り組んでいきたい。</p>

. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>ご本人やご家族から今まで生活されてきた事を聞き参考にして、本人やご家族の思いや願いが叶うよう心かけている。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>職員と利用者様が一緒にお茶を飲みながらゆとりあるケアを目指し会話の時間等を大切にしている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>一人ひとりの生活ペースを把握してのんびり、楽しく暮らして頂いている。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>ご自分から家事手伝いを行って頂いたり、声かけをして職員と利用者様が一緒に行いながら楽しく行っている。味付け等も教えてもらう事で生き生きとした表情が見られている。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>買い物や散歩等、希望に添えるように対応している。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>医療連携看護師が健康管理の為、1週間に1回訪問をしており、24時間体制で常に連絡が取れるようになっている。</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>その時々々の状況に応じた柔軟な対応を心掛け、安心した生活を送って頂いている。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p> <p>面会時等、ご家族からの話を聞き、少しでも不安な事がなくなるように話し合い、その都度、管理者を中心に解決策を職員で話し合っている。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>頻度は異なるが、利用者様によっては友人等の面会がある。</p>

. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	運営推進会議は都合により参加出来ないご家族や関係者もいる為増えているとはいえません。今後は会議の日程等を調整しながら参加して頂けるようにしていき、理解を深めて頂けるように努めていく。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2 / 3くらいが 職員の1 / 3くらいが ほとんどいない	職員が認知症を理解して仕事に取り組み、チームワークを大切にしながら責任や役割を持ち、活気のある仕事ができている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2 / 3くらいが 利用者の1 / 3くらいが ほとんどいない	要望があった時には速やかに対応している。不満などが聞かれた時には職員全員で話し合い要望を聞き入れるように努めている。今後も利用者様の気持ちを十分に汲み取れるよう努めていきたい。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2 / 3くらいが 家族等の1 / 3くらいが ほとんどいない	ご家族からの要望は随時対応しているが、要望等を話されないご家族もいる為、こちらから引き出す様に話している。今後も全てのご家族に満足して頂けるよう努めていきたい。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ・近くに幼稚園があり園児たちが来てお遊戯や歌を唄ったり一緒に手遊びをしたりしている。
- ・クリスマス会には近くの中高校生が来て合唱をしたり一緒に花見をしたりしている。
- ・同系列のグループホームで行事があれば参加して交流をしている。
- ・近所に手作り人形を作られている方がいて「家に来ませんか」と声をかけて頂いたり近所の方たちとの交流も少しずつですが増えてきている。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム よろこびの家 茉景2階	評価実施年月日	平成22年1月1日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年1月1日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	理念はスタッフルーム、掲示板等に掲示している。新規採用職員にはオリエーション時に説明している。	理念については、職員と話し合いをした結果、開設当時の理念であり、職員はもちろん入居者様やご家族にも浸透されているので、このままの理念で行い、業景の色として「ゆったり」「いっしょに」「たのしく」をモットーに今後も取り組んでいく。
2	理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を掲示している。いつでも理念を念頭に置き日々の介護に、自分、他の職員にも注意し合える環境作りをしている。新規採用職員にはオリエーションの際に特に理念の大切さと理念の意味を理解して頂くよう努めている。	理念を実行していくには、ご本人の心に寄り添い、生き生きと笑顔ある生活が送れるように支援する。馴染みのある生活空間を作りご本人の力が可能な限り発揮できる様に支援する。地域とのふれあいを通し自由で豊かな心と生活が保てるように支援する。家族の方が安心と満足を得られご本人との楽しい時間が過ごせる様に支援する。以上の事が出来ているか常に職員と話し合いを行っています。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	運営推進会議で理念の大切さを述べたり、広報誌に理念を掲載したりしている。	理念を掲示したり、広報誌に掲載して、ご家族や地域の方に理解してもらえるように取り組んでいる。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	行事の時等は挨拶分を作り参加して頂けるよう近所の方々に持参している。近所の方達には挨拶を行っているが行事等の参加はなく気軽な付き合いはできていない。	職員間で散歩等でお会いした時は挨拶するよう徹底している。今後は近所の方達が気軽にホームに来て頂けるようにしていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町会の夏祭りに参加したり、近くの幼稚園の園児達や高校生の方達が来て下さり歌やお遊戯を披露してくれたり利用者様と一緒に体操や手遊びをしたりお話をしたりして交流を持っている。	今後も地域との交流が増えるよう当ホームをたくさんの方達に知って頂き色々な交流の場へ参加していきたい。
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域により密着できるよう町会主催の行事等の参加のお誘いがあった時には参加できる体制をとっている。町会長さんとも日頃から参加できる事がないか話をしたり取り組みをしている。	毎年町会の夏祭りには参加していますが他の行事にも積極的に参加し交流を深めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>スタッフ会議で自己評価、外部評価の実施する意義を話し合っている。評価の結果を活かし改善に努めている。</p>	<p>今後も管理者を中心に会議等で話し合い職員全員が外部評価、自己評価を理解出来るようにしていく。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>2ヶ月に1回運営推進会議を行い今後のサービスの向上に繋げて参加者の意見や質疑応答等で情報共有化している。運営推進会議の参加者が少ない為今後検討していく。</p>	<p>ご家族の参加が少ない為意見交換があまり行なえていない。今後は検討してご家族の参加を多くしていく必要がある。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>関わりは運営推進会議に限られている。市町村主催の勉強会には参加している。</p>	<p>今後も市町村と連携を図りサービスの向上に繋げていきたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>現在は権利擁護を必要とされる利用者様が少ない為活用は行っていない。成年後見制度の勉強会には参加している。</p>	<p>必要な制度を利用する利用者様が増える事を考えて権利擁護や成年後見制度の勉強会に管理者だけではなく職員も参加し誰もが説明できる体制を整えていく。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>全てのグループホームに身体拘束廃止委員がいて定期的に会議を行い意見交換を行い防止に努めている。スタッフ会議等でも虐待を起こさない為の話し合いを行っている。</p>	<p>委員会で身体的虐待、言葉の虐待等の事例検討を行い意見交換を行っている。新規採用職員には高齢者虐待の資料を読んで感想文を書いて貰い虐待への意識付けをしている。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>利用者様、ご家族に説明を行い理解して頂いた上で契約、解約を行っている。疑問や不安があった時は言って頂けるような対応を心がけている。入退居時では十分に理解されない事があるのでその都度説明を行い対応している。</p>	<p>納得して頂けるよう誠意を持って相談にのり説明を行っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>苦情相談窓口担当者を設置している。利用者様本人から又はご家族から不満や苦情を聞かれた場合は職員全員で原因を考え改善策を話し合い対応している。</p>		<p>各ユニットだけでなく全グループホームで全体管理者会議を行い報告し意見交換を行っている。</p>
<p>14 家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>健康状態や病院受診の結果は面会時に報告している。遠方の方には電話で報告している。金銭管理は管理者が行いレシートや領収書をファイルに保管し帳簿は週1回管理者同士で確認し月1回本部に持って行き確認して貰っている。帳簿、レシート、領収書は請求書郵送時に同封している。職員の写真を掲示し異動等の時には面会時や遠方のご家族には請求書郵送時に書面で報告している。</p>		<p>金銭管理は今後も徹底して行っていきたい。利用者様の健康状態についてご家族から聞かれた時は職員全員で健康状態を把握し説明出来るようにしていきたい。</p>
<p>15 運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>苦情については管理者を中心に職員で対応している。苦情が出た時はスタッフ会議を行い原因究明、改善策を話し合っている。苦情処理簿を作り職員全員で情報を共有し今後同じ苦情がでないよう努めている。</p>		<p>スタッフ会議や全体管理者会議の際にどのような苦情を受けどのように対応したのかを報告し話し合い同じ苦情が出ないように努めている。</p>
<p>16 運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>管理者はスタッフ会議や職員一人ひとりと面談を行い意見や提案をきいている。スタッフ会議でも話し合い職員全員が共有し業務に反映している。</p>		<p>管理者と職員の信頼関係を作り気軽に意見交換ができる環境を整えていく。</p>
<p>17 柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>行事等があった時は事故が起こらないよう職員の数を増やすよう努めている。その為の勤務表作成、調節を行っている。勤務体制は管理者を中心にスタッフ会議で職員の意見も聞き変更を行っている。</p>		<p>必要に応じ勤務時間の変更を管理者を中心に職員で話し合い決めていく。</p>
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>極力異動は行わないようにしている。やむをえない退職や異動は事前に利用者様やご家族に報告し不安や動揺がないよう対応している。退職や異動の希望が職員から出た時は理由を聞きやむをえない理由以外は残って貰うよう対応している。</p>		<p>利用者様の不安や動揺を最小限に抑えるよう対応している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>1ヶ月に1度勉強会を行ったり外部で研修があった場合は声がけ、参加を行っている。参加したい職員には勤務調整を行い参加している。参加後には報告書を作成して貰い参加しなかった職員にも共有出来るようにしている。</p>	<p>知識や技術の向上の為様々な研修、勉強会に参加して貰うよう必要性を管理者が職員に伝えている。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>地域をブロックに分けて定期的に勉強会や交流会を行なっていて参加している。当法人内外ではパソコンを使いメール等で情報交換を行っている。</p>	<p>今後他の同業者と連携を図り管理者だけが勉強会や意見交換に行くのではなく全職員が参加できるようにしていきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>悩み事やストレスを感じた時に管理者に気軽に相談出来るよう職員と管理者の信頼関係が築ける環境作りを行っている。会話等から管理者は職員の気持ちをくみ取る努力を行っている。職員同士でも気軽に意見等を話せる環境作りをしている。年に何回かは交流会を行なっている。</p>	<p>管理者と職員又は職員同士のコミュニケーションが図れて働きやすい環境づくりに努めていきたい。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>管理者は年に1度職員と人事考課と面談を行い職員1人ひとりの努力や実績を評価して尊重し合える環境作りを行っている。職員1人ひとりが目標を持ち向上心を持って仕事が出来るよう管理者は努めている。</p>	<p>管理者は人事考課や面談時等で職員にアドバイスしている。又、いつでも管理者と職員が話し合える環境を作っている。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居窓口担当者と管理者が中心になり利用者様が生活する上で困っている事、不安に感じている事を初期から利用後も職員間で把握し生活の上で常に不安や悩みを聞く体制を作っている。</p>	<p>入居後はカンファレンスやスタッフ会議で話し合い利用者様の要望や不安等を職員全員で情報を共有しケアに活かしている。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居窓口担当者と管理者がご家族との面談時に困っている事、不安に思っている事を聞き今後の対応について相談や助言を行なっている。</p>	<p>どなたでも気軽に相談や見学できるよう事前に連絡等がなくても受け入れて困り事や悩み事等を聞いて助言を行っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者様、ご家族が必要としている支援を第一のサービスにするようケアプランを作成している。利用者様1人ひとりの過去の経験を活かしたケアにする為情報収集に努めている。		収集した情報から利用者様に合ったケアサービスを職員で検討している。利用者様の出来る事、出来ない事を見極めケアサービスに取り入れている。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用者様が馴染めるよう職員は雰囲気合ったサービスをして会話等で工夫をしている。拒否された時は強制せずに本人のペースに合わせ時間をかけて声かけを行っている。利用者様が一番何が大事で必要なのかを重視し観察を行い職員で検討し利用者様本位の生活を目指すよう努めている。		これまでの生活習慣を変えるのではなく毎日の生活を本人のペースで過ごして頂くよう努めている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者様は人生の大先輩であるという気持ちを忘れず接している。食事作りを教えて頂いたりして人生の経験の中で知識や知恵を学ぶ事も忘れず利用者様と一緒に過ごす事で楽しく安心して生活して頂けるよう心かけている。		利用者様1人ひとりの出来る事や出来ない事を職員が把握して出来ない時にはさりげなく職員がお手伝いをして出来たという達成感を味わって頂けるよう努めている。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族からの要望を大事にし利用者様と接しご家族と職員と一緒に利用者様を支えていける関係作りに努めている。なかなか面会に来られない遠方のご家族には電話で生活状況や健康状態を報告し要望を聞いて対応している。		利用者様の普段の様子等を面会時や電話で報告している。今後もご家族に安心して頂けるよう支援をしていく。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	職員全員で利用者様1人ひとりの情報を把握し状況報告を面会時や電話で行っている。利用者様とご家族がより良い家族関係が築けるよう支援している。		面会時や電話で生活状況を報告している。状態変化や緊急受診等の時にはご家族に連絡し協力をして頂いている。行事のときにも参加して頂き利用者様とより良い関係を築いて頂くよう努めている。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	長年のお友達や知人との関係が続くよう面会を設けたり、職員の送迎で友人宅に行かれる事があります。また長年通っている美容室やお店を利用されている。		今後も馴染みの関係が続くよう利用者様の希望があれば職員と一緒に出かけて頂くようにしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者様の性格を把握してお茶の時間や食事の時にはテーブルに座る位置を考えコミュニケーションが図れるよう努めている。利用者様の中で1人である方には職員が間に入り他の利用者様とコミュニケーションが図れるようお手伝いをし寂しさを感じさせないよう努めている。		レクリエーションやドライブや散歩等を行い利用者様同士がコミュニケーションを図れるよう声がけを行い支援している。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	現在はサービス利用が終了しても継続的な関わりを必要とする利用者様やご家族がいない為評価は困難である。		今後は希望される利用者様やご家族については適切な対応が出来る体制を作っていく必要がある。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン等から利用者様やご家族からの暮らし方の希望や意見を聞き利用者様の日々の生活が満足して頂けるよう努めている。		利用者様、ご家族から話を聞きカンファレンス会議等で職員で良く話し合いご本人が満足のいく生活が出来るよう支援している。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に利用者様やご家族からこれまでの生活を聞きフェイスシートを作成している。		職員全員が利用者様1人ひとりの生活歴を把握し慣れた生活環境で生活ができるよう支援している。又、随時ご家族からも話を聞き情報収集をしている。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	朝、夕の申し送りをきちんと行い、又、記録等で利用者様の1日の過ごされ方や心身状態を職員全員で把握し適した対応が出来るよう努めている。		利用者様1人ひとりの個別のケアが提供出来るよう生活や心身の状態を職員が申し送り等で把握している。利用者様との会話の中から悩みやストレス等があれば気持ちが少しでも和らげるよう配慮していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	利用者様やご家族との話し合いや会議等を開き「利用者様がより良い生活を送る事ができるには」という事を第一に考えケアプランに反映するよう努めている。		3ヶ月毎にケアプランの見直しを職員で話し合い行い利用者様、ご家族の要望をふまえケアプランを作成し職員全員がプランを把握して取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月に1回又は状態変化時に計画作成担当者と担当職員を中心にカンファレンスやモニタリングを行い、プランの見直し、改善を行っている。利用者様やご家族から意見等も聞きケアプランに反映している。		利用者様やご家族の要望等を聞き大切にプランの見直しを行っている。今後も利用者様の状態変化を見逃さず要望を聞き入れ良いケアを行っていききたい。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者様1人ひとりのケアの記録が毎日行われている。職員全員が利用者様1人ひとりの情報を把握出来るようになっている。記録は生活の様子から健康状態に関わる事が記録に残されている。		申し送りや記録は毎日行っている。気がついた事はその都度職員で話し合い改善に努めている。記録は利用者様1人ひとりの生活面が良く分かるような記録の仕方を職員全員が出来るよう努めていききたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	利用者様やご家族の要望が取り入れられるよう職員と話し合い対応が出来るよう努めている。		利用者様、ご家族の要望に出来る限り応える事は信頼関係を築いていく上で大切な事なので今後も柔軟な支援が出来るよう努めていききたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	近くの幼稚園や高校生等のボランティアの協力を得て行事等への参加支援を行っている。防火訓練は年2回消防に協力して頂き行っている。高齢者の交通安全の講義を警察の方に来て頂き行っている。		今後は多方面に協力と理解が得られるようにしていく。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	入居時に他の機関を利用していた利用者様にはその機関の担当者と情報交換を行っている。地域の他のケアマネージャーとも連携を図り情報交換を行っている。		積極的に活用できるような支援の確立が今後は必要。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	利用者様の意向や必要性により地域支援センターと連携する事のできる体制は整っているが現在は権利擁護を利用されている利用者様はいない。		今後は多様化する利用者様のニーズに応える為に地域支援センターとの連携や協働体制を強化する必要がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者様1人ひとりにかかりつけの医療機関があり定期的に受診をしている。週1回医療連携看護師が健康管理で訪問している。体調に変化が見られた時は医療連携看護師に連絡し指示を貰い対応している。医療連携看護師とは24時間体制で連絡が取れるようになっている。		受診時には利用者様1人ひとりのかかりつけの医療機関に職員が同行して行かれ担当医に相談したり指示を貰い対応している。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	受診前にご家族と相談して担当医への受診を行っている。受診時には職員も同行して相談を行い助言等が受けられるようになっている。		受診して担当医から相談やアドバイスを貰っている。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	医療連携看護師が週1回訪問し血圧測定等の健康管理を行っている。訪問時に相談を行い指示を貰い対応している。体調に変化が見られた時は24時間体制で医療連携看護師に連絡がとれる為相談をし指示を貰っている。		24時間医療連携看護師と連絡がとれる体制になっていて緊急時の相談、助言が出来るようになっている。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	管理者が中心となり入院先の病院の担当医や看護師に連絡を行い情報交換を行い早期退院ができるよう支援を行っている。		入院先の担当医や看護師との連絡を密に症状等についての話し合いをして早期退院に向けての連携を図っている。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	終期末をグループホームで看取りたいと家族が希望された時はかかりつけ病院の主治医に連絡、相談をして対応できる体制にはなっている。しかし全ての主治医との連携は図れていない。		今後は利用者全員の主治医と協力し利用者様、ご家族が安心した終末期を迎えて送る事が出来るようにしていく必要がある。現在看取りを行った事はありませんが希望に応えられるよう各種サービスと連携を図っていきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	サービス担当者会議等で話し合い今後の利用者様の体調変化等に備え検討や準備を行っている。		今後も医療連携看護師と連携を図り支援していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>他の居宅へ移られる時や入居の際には前の居宅関係者に利用者様の詳しい生活等の情報収集を行いダメージを最小限に抑えるよう努めている。</p>		<p>他の居宅へ移りたいとの希望があった時は移られる居宅の関係者と連携を密にして住替えによる利用者様のダメージの軽減に抑えるよう努めていきたい。</p>
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>利用者様1人ひとりのプライバシーに考慮した声かけを行っている。又、会議等の議事録には利用者様の名前を記入しないで居室番号又は居室に書かれている花の名前で記入している。</p>		<p>個人情報の保護については利用者様、ご家族に安心して頂けるよう努めている。個人情報のファイル等の保管場所は鍵のかかる場所に保管し鍵は管理者が持っている。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>茶話会等の時には利用者様の希望を聞き一人ひとり違う飲み物をお出しする事もあります。行事等で出前等を注文する時にもメニュー表を見て頂きご本人に決めて頂いています。毎日の生活の中で利用者様が自己決定できるような雰囲気作りや声かけ、説明を行うよう心がけています。</p>		<p>利用者様1人ひとりの嗜好が違うので会話やコミュニケーションを大事にして嗜好について理解を深めている。</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>出来る限り利用者様のペースに合わせている。買い物やドライブに行きたいと希望された時は同行したり入浴も時間を決めず利用者様の希望する時間に入浴をして頂いている。入浴を拒否された時は強制せず翌日に再度声かけを行っている。</p>		<p>出来る限り、利用者様のその日の希望を聞いているが十分な対応が出来ていない為今後も個別対応を心がけていきたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>訪問理容、美容は利用者様やご家族と相談しながら決めていく。長年通われている美容院に行かれる入居者様もいる。服装は利用者様の希望を聞き季節にあった服をご家族に持って来て頂き着て頂いている。</p>		<p>利用者様の希望等を尊重している。</p>
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事の献立を考える時には利用者様の意見を聞いて献立を考えている。食事の時には会話等から好き、嫌いな物や食べたい物等を聞いている。食事の盛り付け、配膳、下膳、後片付け等は利用者様と一緒にしている。</p>		<p>利用者様1人ひとりの出来る事、出来ない事を把握し能力に合わせたお手伝いをして頂いている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	現在は飲酒、喫煙をされる利用者様はいません。10時と15時のオヤツの時間には飲みたいものを1人ひとりにお聞きしている。好きなお菓子等を買いたいと希望された時は一緒に買い物に行きお小遣いから買われている。長年愛飲しているお茶をご家族が持ってくる利用者様もいます。		季節にあったオヤツをや飲み物を出しています。又食べたい物や飲みたい物の希望を聞いています。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	利用者様1人ひとりの排泄パターンを職員全員が把握し時間毎のトイレ誘導を行っている。ズボン等の上げ下げが出来る利用者様にはご自分で行って頂くよう声がけをしている。失敗時には利用者様の自尊心を傷つけないよう細心の注意をしている。		今後も利用者様の排泄パターンを把握し失敗なくトイレで排泄が出来るよう努めていく。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴日や時間を決めず利用者様の希望を聞きいつでも入浴が出来るようにしている。ご自分から入浴の希望が聞かれない利用者様には職員が声がけを行いご本人の意思を尊重するよう努めている。		現在は夕食後の入浴を希望される利用者様はいませんが今後は希望に応じいつでも入浴が出来るよう支援していく。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	就寝時間は決めてなく利用者様が眠りたいときに居室に戻り休んで頂くよう支援している。利用者様1人ひとりの週間やその日の体調に応じ様子観察を行いながら眠りたい時に眠っていただくよう支援している。		夜間の見守りの時に起きられている利用者様には話をしたり飲み物を飲んで頂き自然に眠られるよう支援している。又、日中等に昼寝をされたい利用者様には居室で休んで頂いたりソファや畳の上等好きな場所で昼寝をして頂いている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	利用者様1人ひとりにあった出来る家事手伝いを行って頂き出来た達成感と自分の役割を感じて貰えるよう支援している。トランプや体操等皆で行うレクリエーションや将棋等少人数で行うレクリエーション等楽しんで頂いている。近所の散歩やドライブに行かれ外の空気を吸ったり景色を見たり気分転換を図って頂くよう支援している。		利用者様1人ひとりの出来る力、能力、体力にあった家事手伝いやレクリエーションを行っている。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご自分でお金を管理出来る利用者様には買い物時には見守りを行いご自分で支払いを行って頂いている。ご自分で管理出来ない利用者様には欲しい物を聞いたり選んで頂き職員が支払いのお手伝いを行っている。		金銭管理簿を作り領収書を貼り付け週1回管理者同士で確認をしている。定期的にご家族にも確認して頂きサインと印鑑を頂いている。金銭簿と領収書のコピーは月末にご家族に郵送している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	希望があった時は職員と一緒に散歩、ドライブ、買い物に行かれている。行事等で外に行かれる時は利用者様全員に声をかけ体調を考慮して参加して頂いている。ご自分から行きたいと話されない利用者様には声かけを行っている。車椅子で散歩に行かれる利用者様もいる。		毎日散歩に行きたい。自宅に行きたい。買物に行きたいと希望される利用者様がいますので今後も外出の機会を多くしていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	希望があった時は出かけて頂くよう支援している。職員も車椅子でも行ける場所を考え検討している。行きたいと言われる利用者様と言われない利用者様がいますので外出の頻度に差がある。		今後は希望を言われない利用者様には職員が声かけを行い外出の機会を多くしていけるよう支援していく。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族から電話があった時はお話が出来るよう支援している。公衆電話がありご自分から電話を掛ける事もできる。子機電話もあり居室でお話ができるようになっている。手紙が来た時は希望があれば職員が読む事もある。代筆したりしている。		今後も電話や手紙等でご家族や友人と連絡が出来るようにしていきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会に来られたご家族には居室やホールでゆっくり利用者様とお話出来るよう心がけている。お茶をお出しする以外は居室等に訪室しないようにしている。		ご家族等がいつでも気軽に来て頂けるよう職員全員が笑顔と挨拶を忘れないよう心がけている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会があり全グループホームで身体拘束について取り組んでいる。スタッフ会議等で職員間で身体拘束について話し合い認識を高めている。		身体拘束の他にも言葉の拘束もある事を職員全員が理解してケアを行っている。新規採用職員には高齢者虐待についての資料を読んで貰い感想文を書いて貰っている。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室は中から利用者様ご自分で鍵をかけたり開けたりする事が出来るが職員のほうからは鍵をかけていない。外泊される時などには承諾を得て鍵をかける事がある。夜間利用者様の希望で鍵をかけて過ごされる方もいる。		鍵をしていない為外への出入りは自由ですが利用者様が外に行かれようとされても止めはしないで職員と一緒に散歩等に行かれている。夜間は防犯の為玄関には鍵をかけている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員はプライバシーに配慮して日中、夜間の様子を把握し安全確認をしている。特に夜間は2時間毎に見回りを行い安全確認を行っている。		利用者様には毎日を安全に過ごして頂けるよう細心の注意をしている。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	洗剤、包丁、薬等、怪我や事故に繋がる危険がある物は必要がない時は利用者様の手の届かない場所や鍵のかかる場所に保管している。		注意の必要な物の管理をきちんと行い利用者様がお手伝いで包丁を使われる時は職員が見守りを行っている。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	月1回事故防止委員会を行い事故の重要性や防止策を検討している。リスクマネージャーを中心に職員全員でヒヤリハット、インシデントについて会議等で話し合い事故防止に取り組んでいる。新規採用職員には重要性について説明し勉強していくよう努める。緊急時のマニュアルも作成し管理者を中心にマニュアルの把握に努めている。		インシデント等が出た時は早急に会議を開き原因の解明や再発防止に努めている。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルがあり勉強会も行っている。職員全員が緊急時に速やかに対応できるレベルにはなっていない。		急変時や事故発生時についての勉強会を今後も行い重要性を職員全員が把握して貰う必要がある。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回消防署の協力を得て避難訓練を行っている。職員全員がいざという時に利用者様を安全又確実に避難誘導が出来る方法は理解していないと思われる。		消防だけでなく近所の方たちの協力も必要になってくるので今後、近所の家に訪問し説明を行い協力が得られる体制を整える必要がある。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	利用者様の状況、状態に合わせ今後、起こりうるリスクを面会時や担当者会議の時に医療、介護の立場でご家族に説明を行い対応策を検討している。		ご家族には今後起こり得るリスクや症状を説明し話し合いを行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	食事量、水分量、血圧測定、普段の会話の中で利用者様1人ひとりの健康状態の観察を行っている。医療連携看護師が週1回訪問しているその時に状態説明を行い指示を頂き対応している。24時間体制で医療連携看護師と連絡が取れるので相談を行ない指示を頂いている。		体調の変化が見られた時は申し送りをを行い状況把握に職員全員で努めている。24時間体制で医療連携看護師に連絡が取れる。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋を見て利用者様1人ひとりの服薬状況を把握している。服薬時にはご自分で服用出来る利用者様には見守りにて服用して頂いている。1人ひとりにあった用法、用量を守る事に努めている。		服薬前には必ず名前、朝、昼、夕、就寝前の確認を利用者様の前でを行い誤薬がないよう努めている。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘気味や便秘をしている利用者様には申し送りにて確認している。下剤を服用するのではなく水分補給を勧めたり運動を行い場合によっては腹部マッサージをしている。必要に応じて医療連携看護師に連絡し指示を頂いている。		基本的には薬に頼らず自然に排便が出来るよう食事のメニューや水分補給の工夫をしている。レクリエーション等による適度な運動も行っている。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後うがい、歯磨きを行っている。ご自分で出来る利用者様は歯ブラシを渡すと洗われていますが出来ない利用者様はうがい等はご自分で行って頂き入れ歯洗いはお手伝いしています。就寝前には入れ歯洗浄剤を使い口腔内の清潔保持に努めている。場合によっては往診や歯科受診を行なっている。		利用者様の状態に応じたケアプランで対応している。口腔内の状態を把握し他の病気(誤嚥性肺炎等)に繋がらないよう努めている。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分量、又、塩分摂取量は利用者様1人ひとり違うため盛り付けや塩分調節を行っている。一度に食事や水分を摂取出来ない利用者様には小分けにしたりゆっくり召し上がって頂くようにしている。1日の食事量と水分量は記録に残している。		栄養バランスに偏りがでないよう献立作りを行っている。利用者様1人ひとりの好き嫌いを考慮しながら希望を聞き献立作りをしている。
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	症状別のマニュアルがあり感染症が発生しても対応できるようになっている。利用者様や職員は外出後のうがい、手洗い、トイレ後、食事前の手洗いも行っている。		感染症の勉強会を行い医療連携とも協力し対応している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>台所や調理器具は毎日消毒を行い衛生管理を行っている。毎日食材の賞味期限や消費期限の確認を行い野菜類については傷んでいないか古くなっていないか等の確認を行っている。</p>		<p>食材は出来るだけ無駄がでないよう気をつけ傷みそうな食材があった時は献立の変更等を行い調理している。</p>
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>季節の置物や花等を飾ったり絵画等を飾り明るい雰囲気作りをしている。来客が来られた時は玄関を入るとソファを設置しているのでくつろげる空間になっている。</p>		<p>玄関先にはスロープがありバリアフリーになっていて階段にはすべり止めマットを設置している。花壇はないがもみじを植えて季節感を出している。</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居間兼食堂には大画面テレビやラジカセ等を設置いつでもテレビを見たり音楽を聴いたり出来るようになっている。居間にはたたみもありくつろげるようになっている。居間、廊下、多目的室にはソファや椅子を設置して座れるようになっている。浴室は浴槽、洗い場が広くゆっくり入浴ができる。毎日掃除を行ない清潔で居心地良く過ごせる空間になっている。</p>		<p>利用者様にとってもご家族が面会に来られても家庭的で居心地良く過ごせるよう明るい雰囲気のある環境作りを整えていきたい。</p>
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>居間のソファに座り新聞やテレビを見られたり利用者様同士が談話されたり多目的室から外の景色を見られたりと過ごされている。居間にはたたみ部分があり横になり音楽を聴かれたりされている。</p>		<p>多目的室より外を眺めながら利用者様同士が談話されたり道を歩かれている人が手を振って下さったり手を振ったりされる事もあります。</p>
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>利用者様やご家族には入居の際にお気に入りの物や使い慣れた家具等を持って来て頂くよう説明している。居室にはお気に入りの物や使い慣れた家具等があるので居心地良く過ごされている。</p>		<p>居室には仏壇を置かれている利用者様もいます。利用者様から欲しい物や家から持って来て欲しい物がある時はご家族に持って来て頂いたり購入している。</p>
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>天候や気温状況で居室や居間の等の窓を1日何回か開け空気の入替えをして温度調節を行っている。</p>		<p>居間には加湿器を設置している。居室の窓を開ける時は利用者様のいない時や体調を考慮し承諾を得て開けている。居室の空気乾燥を防ぐ為濡れたタオルを置き対応している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>廊下、浴室、トイレ等に手すりを設置しておりバリアフリーなっていてホーム全体が安全面を考慮した作りになっている。エレベーターも設置している。</p>	<p>階段の昇降時や居間のたたみスペースに行かれる時は職員と一緒にいき安全確認を行っている。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>職員全員で利用者様1人ひとりの出来る力を把握し声かけや見守りにて行っている。失敗された時はプライドを傷つけないようさりげなくお手伝いが出来るよう対応に努めている。</p>	<p>職員は利用者様の出来る事を把握し強制するのではなく楽しく行って頂くよう声かけや見守りを行っている。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>行事として駐車場で花火大会を行ったりウッドデッキに出て日向ぼっこ等もしている。</p>	<p>駐車場のスペースは限られているので出来る行事限られているが周りの環境等を考え季節感を味わって頂けるような行事を考えていきたい。</p>

. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>利用者様、ご家族からこれまでの生活されてきた事を聞き参考にして希望や要望を尊重して思いや願いが叶うよう心かけている。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>茶話会等で利用者様と一緒にお茶を飲みながらお話が出来る時間を大切にしている。気持ちにゆとりのあるケアを目標にしている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>利用者様1人ひとりの生活のペースを把握して楽しく、のんびりと過ごして頂いている。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>ご自分から家事手伝いを行なって頂いたり、声かけで職員と一緒にいながら励ましや見守りながら出来たという達成感を感じて貰えるよう対応している。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>買い物や散歩、ドライブ等希望を聞き体調を考慮し対応している。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>医療連携看護師が週1回健康管理で訪問している。24時間体制で連絡が取れるようになっていて指示を貰っている。</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>日々安心して過ごして頂くよう職員がその時々々の状況にて柔軟な対応をしている。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p> <p>面会や電話等でご家族と話をして困った事や不安に感じている事を聞き管理者を中心に職員で解決策を検討している。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>利用者様により違いますが友人等の面会がある方もいる。</p>

. サービスの成果に関する項目			
	項目	取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	運営推進会議には日程の都合で参加できないご家族や関係者もいるので増えているとは言えない。今後は日程等の変更を行い理解を深めて頂くよう努めていく。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	職員が認知症を理解し各自が目標を立て取り組み、責任、役割、チームワークを持ち資格を生かしながら仕事ができている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	要望があった時は速やかに聞きいれるよう対応している。不満等が聞かれた時は職員全員で周知対応している。今後も利用者様が過ごしやすい環境を作り気持ちをくみ取れるよう努めていきたい。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	要望を言われたいご家族にはこちらから話をして引き出す必要がある。ご家族からの要望には速やかに対応している。今後も利用者様全員のご家族に満足して頂けるよう努めていきたい。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ・近くに幼稚園があり園児たちが来てお遊戯や歌を唄ったり一緒に手遊びをしたりしている。
- ・クリスマス会には近くの中高校生が来て合唱をしたり一緒に花見をしたりしている。
- ・同系列のグループホームで行事があれば参加して交流をしている。
- ・近所に手作り人形を作られている方がいて「家に来ませんか」と声をかけて頂いたり近所の方たちとの交流も少しずつですが増えてきている。